

ふじのみや探検

第21号 人穴富士講遺跡のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

ひみつ1

人穴富士講遺跡ってなに

人穴富士講遺跡は、富士山世界文化遺産の構成資産のひとつです。

戦国時代から江戸時代のはじめにかけて、長谷川角行は、人穴の洞くつにこもってきびしい修行をおこないました。角行のおこしたあたらしい富士山信仰には多くの弟子が集まり、角行を開祖とする信仰が生まれました。のちにはそれは富士講と呼ばれます。

富士講は江戸時代中期になると盛んになり、講の人たちは、富士吉田口から富士山に登りました。中には、その後人穴を訪れ、参詣・修行をする人たちもいました。人穴は、開祖である角行の修行した場所であり、入寂の浄土でもあることから、信仰の大事な場所でした。

富士講の人たちは、開祖である角行や六代目である弟子の身祿、先達らを供養するための石碑や登拝回数を称えた記念碑、道案内などの石碑を建てました。それらの石碑は、人穴地区以外のものを含め全部で260基ほどあります。これらを調査すると、江戸時代の中ころから始まり、昭和初期まで続いた富士講の人穴参詣のようすがわかります。そこからは、富士山にあこがれ、富士山に祈った江戸の人びとのくらしが見えます。

人穴では、御法家とよばれた赤池家が、参詣の案内や休憩・宿泊の世話をしました。また、人穴にかかわる物語を印刷したり、参詣の記念品を作ったりしていました。



◇ことばの説明

開祖…仏教で、その宗派をはじめた人。入寂…僧が死ぬこと。

浄土…仏教で、仏やぼさつがいるという、罪やけがれの無い国。

参詣…神仏におまいりすること。先達…富士登山で、先に立って案内する人。

ひみつ2

角行は なぜ人穴をえらんだの？ どんな修行をしたの？

長谷川角行は長崎の生まれで、世の中の人びとを救うところざしを立て、諸国巡礼の旅に出たといいますが、そして、岩手県のある洞くつで修行しているところ役行者のお告げにより、人穴で修行するようになったと伝えられています。

そのころ、人穴は「西の浄土」と呼ばれ、浅間大菩薩が住んでいる場所と考えられていました。

伝説によれば、角行がおこなった修行は、白糸の滝で身を清めた後、人穴の洞くつに入って一日に何時間も角材の小口の上に爪先立ちするものであり、その苦行を一千日間行ったといわれています。

こうしていっしょうけんめい修行した角行は、浅間大菩薩から角行という名前をつけてもらったそうです。

その後も、角行は富士登拝や水行をくり返し、きびしい修行を重ねたのでしょう。

像 角行の修行



修行中の長谷川角行

◇ことばの説明

巡礼…宗教のうえでとうといとされる場所や、あちこちの神社や寺をまわっておがむこと。

役行者…修験道の開祖とされる人物。修験道はけわしい山で修行することで、超自然的な力をつけることを考えていた。

浅間大菩薩…神道ではコノハナサクヤヒメとされていたが、仏教では浅間大菩薩と呼ばれていた。

ひみつ3

人穴は、浅間大菩薩の御在所

吾妻鏡に、人穴の話がでています。鎌倉幕府の2代将軍の源頼家が富士の巻狩りをしたときに、人穴という洞くつがあることを知り、家来の新田四郎忠常に人穴の探検をさせました。

忠常は勇気をだして6人の家来とともに洞くつに入っていました。洞くつの中は1日歩いても奥が深くおそろしいところで、そのうちに大きな河が立ち上がり先に進めなくなり、その対岸から火の光があたり、4人の家来が死んでしまいます。忠常は霊のおしえにより頼家からたまわった剣を河に投げ入れ難を逃れたという話です。

室町時代になって、この話をもとに「富士の人穴草紙」という本がつくられ、多くの人に読まれました。その本の中では、忠常が浅間大菩薩に出会って地獄の話聞く場面が出てきます。この話がたいへん話題になり、いつしか人穴は浅間大菩薩の御在所(すんでいるところ)と考えられ、「西の浄土」とも呼ばれるようになりました。



新田四郎忠常が浅間大菩薩(コノハナサクヤヒメ)に出会っている場面

◇ことばの説明

吾妻鏡…1180年から1266年までの鎌倉幕府の歴史にかかわる内容をまとめた書物。

ひみつ4

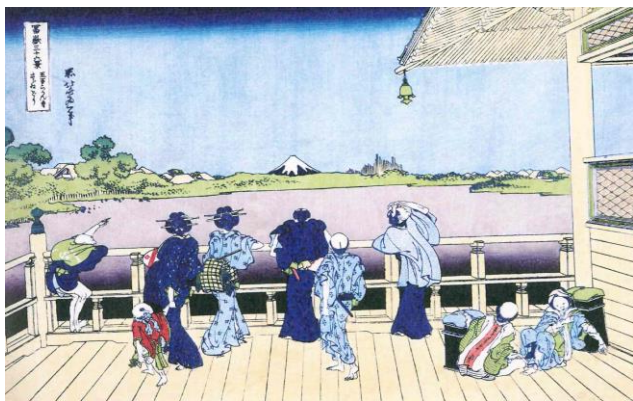
富士講がさかんになった理由？

角行が死んだ後、角行を開祖とする富士山信仰が江戸の地に根を下ろしました。

その後、角行の教えを引き継いだ藤原光清や食行身禄が、富士山信仰をさらに大きな組織にしました。

食行身禄は「おふせぎ」などの修験道的な方法で病気をなおし、江戸で信者を集めました。その後、身禄は自分の信仰をつらぬくために富士山烏帽子岳で断食の修行をして、そのままミイラ仏となりました。その教えを受け継いだ弟子たちは布教活動を熱心に行い、仲間をふやし、身禄の33回忌のころには江戸八百八講といわれたほど大きくなっていました。このころから、江戸で広がった富士山信仰を富士講と呼ぶようになりました。身禄の教えは、だれでもいっしょうけんめい努力すれば成功できるという、それまでにはない新しい考え方を富士山信仰の中に示しました。その教えは、身分や男女にかわりなく受け入れられ、富士講の仲間がたくさんふえました。

富士講がさかんになったのは、講というしくみができたことと、江戸の人たちの富士山へのあこがれが信仰に変わっていったことがあげられます。



「富岳三十六景 五百羅漢寺 三匠堂」葛飾北斎

(江戸の人々は、富士山をながめ、いつか登ってみたいという思いをふくらめました。)

◇ことばの説明

江戸八百八講…江戸八百八町は、江戸に町が多数あることをいうことばです。江戸幕府が開かれたころは、三百余町でしたが、江戸中期には千町をこえていました。

ひみつ5

赤池家はどんなことをしたの？

赤池家は、富士講の人たちが人穴参詣にやってくるようになると、御法家とよばれ、修行の世話や、参詣者の休憩や宿泊ができるようにしました。



昔の赤池家の写真

御法家赤池家では、参詣の記念品として、角行のお札や御あかをつくったり、角行にかかわる書物や「富士人穴物語」、「富士山人穴双子」の本などを木版で印刷したりしました。これらは、参詣に来られない仲間への土産となりました。

また、開祖や先達のための供養碑や記念碑をたてる手伝いもしました。富士講の人たちは、それぞれの団体ごとに供養碑や参拝記念碑を建てました。それが人穴富士講遺跡として今に伝わっています。

◇ことばの説明

御法家…赤池家では、自ら角行尊師御法家と名のり、富士講の人たちの参拝や修行の世話をし、休憩や宿泊のためのしせつを守ってきました。

御あか…人穴の洞くつの水底にたまった土からつくったといわれる薬で、万病にきくといわれた。

「富士人穴物語」、「富士山人穴双子」…忠常が浅間大菩薩に会って、地獄の話聞く話。いまでも赤池家に版木が大切に保存されています。

ひみつ6

明治時代になると人穴浅間神社となる

江戸時代までは、人穴に来た人たちは大日堂に参詣していましたが、明治時代になると大日堂は取りこわされ、浅間神社が建てられます。

人穴浅間神社は疎開して
芝山浅間神社をつつた

昭和17年、上井出に陸軍少年戦車兵学校がつくられました。その結果、人穴が戦車の訓練場になったため、人穴の人たちは移住させられました。

人穴地区89戸のうち38戸の人たちが、集団で芝山に引っ越しました。そして、人穴の浅間神社もいっしょに引っ越しました。

御法家の赤池家は北山に移りましたが、人穴にあった赤池家の門(3ページの写真)や富士講にかかわる資料を今も大切に保存しています。

戦争が終わって、人穴へ浅間神社は戻り、新築されましたが、芝山に移された人穴浅間神社の建物は芝山浅間神社として、芝山の人たちによって大切に守られています。



芝山浅間神社

※このお話は、たくさんある伝説の中の二つです。これが本当のことがどうかはわかりません。



◇『第21号 人穴富士講遺跡のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 1 『史蹟人穴』 富士宮市教育委員会 / 1998
- 2 『富士の人穴草子研究覚書』 小山一成 / 立正大学文学部論叢 74号 1982
- 3 『歴史を旅した石たち』 沢田正彦 / エース出版社 2016
- 4 『人穴と家康』 遠藤秀男 / フジ印刷 1963
- 5 『世界遺産富士山に行く!』 藤井勝彦 / メイツ出版社 2014
- 6 『世界遺産富士山—信仰の対象と芸術の源泉』 富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議 / 株式会社カントー 2014
- 7 『身祿の聖物』 富士吉田市教育委員会 / サンニチ印刷 2008
- 8 『富士講のヒミツ』 富士吉田市教育委員会 / 少国民社 2015
- 9 『富士講の歴史』 岩科小一郎 / 名著出版 1983
- 10 『富士人穴雙子』 富士市立中央図書館 / 2008